

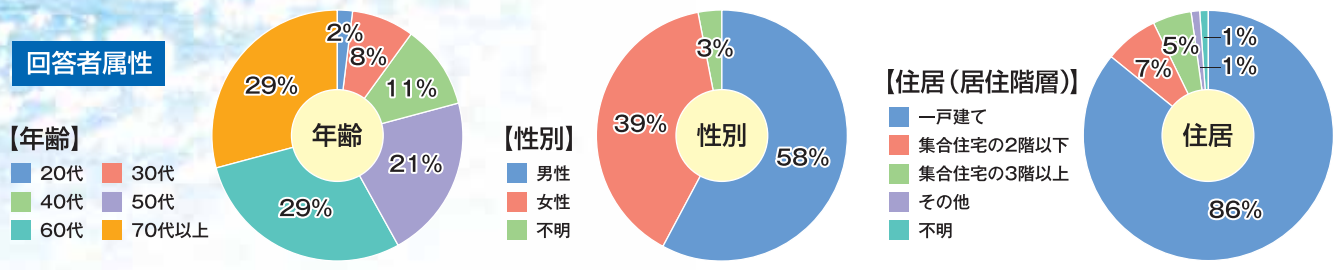
千代川沿川地区における 水害意識に関するアンケート

調査結果報告

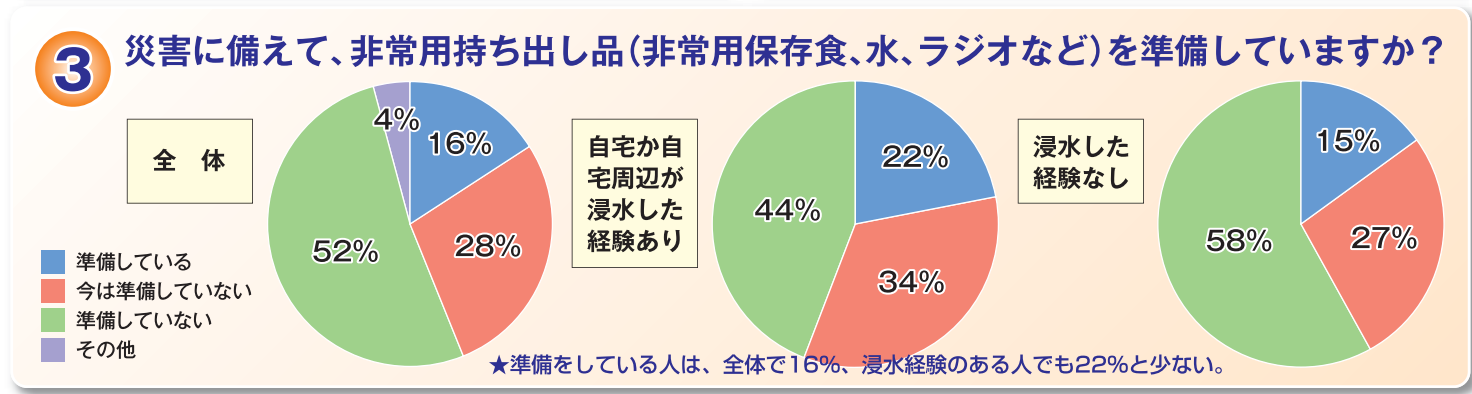
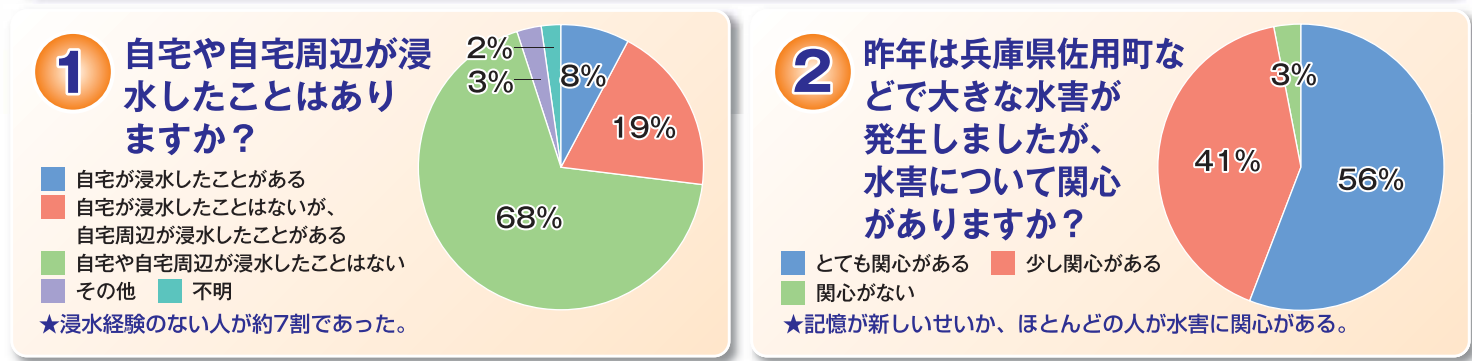
千代川流域にお住まいの方々の水害意識を把握するため、今年の8月から約1ヶ月間にわたってアンケート調査を実施しました。数多くの回答をいただき、ご協力いただきました皆様ありがとうございました。この調査結果を基に、現状と課題を整理し、今後の防災対策に役立てていきます。



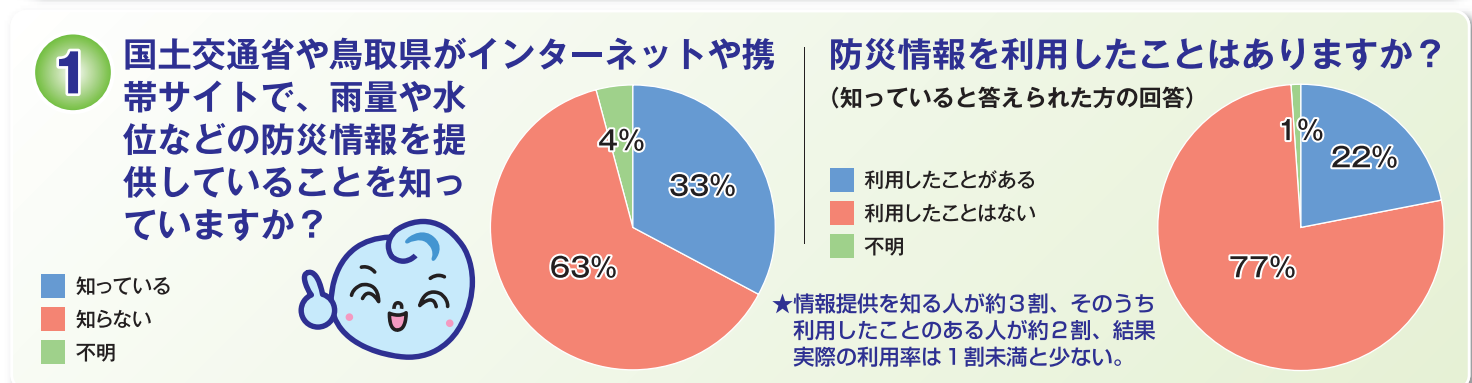
◆アンケート調査方法……自治会を通して配布及び回収を依頼
◆配布エリア……明德地区、大正地区、富桑地区、その他（ポスティングによる無作為配布） ◆回答総数……3,134通



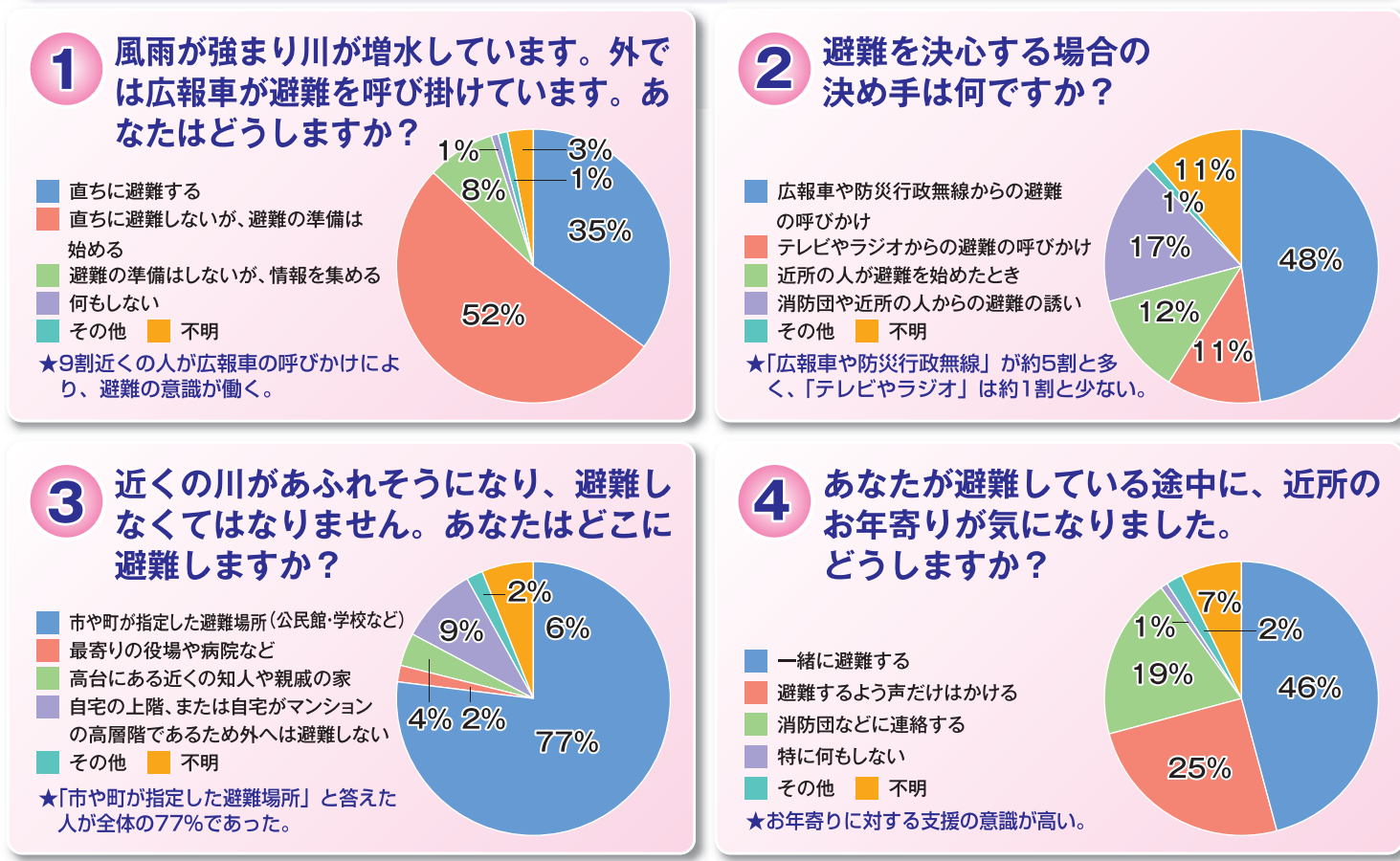
水害に関する知識や備えについて



地域の防災情報について



避難行動について



【情報】

- 危険な場所などを予め住民に知らせておいて欲しい。
- 地域では「うわさ」が先行する場合がありますので、正確な情報を正しく住民に伝える事の徹底をお願いしたい。

【避難】

- 避難場所は自宅から距離があって避難できるかどうか心配。
- 無理な移動より、自宅の二階や近所の高層アパート利用など実情に則した避難方法を教えて欲しい。
- 近くの避難所は地盤が低く、水害時には使えないと思う。
- 避難システム（自主避難・避難勧告など）を知らないの教えて欲しい。

【普段の備え】

- 救助、避難に関する実地訓練を実施して欲しい。
- 地域の問題点を明確にし、その解決のために住民が一体となって取り組むような体制づくりが必要。
- ハザードマップの配布は防災意識を高めるためにも有効。配布後のフォローも必要。
- このアンケートを記入している間に、自分が防災の知識を何も知らないことがわかった。

【要援護者】

- 老人、子供等への対応をどうすべきか、より具体的に検討すべき。
- 広報車で呼びかけはもちろんだが、1人暮らしの老人宅には責任をもって伝える人が必要だと思う。

調査結果【まとめと今後の課題】

- 水害に対して関心があると答えた方が97%と千代川流域住民の水害に対する関心は高いですが、非常用持出品を準備している方は16%、「ハザードマップを持っている人」は47%と、普段からの備えについては十分とは言えない点が見られました。
- 避難に関しては、「広報車が避難を呼びかけた」場合、直ちに避難する人が35%、避難の準備を始める人が52%という結果であり、「避難の決め手」としては、「広報車や防災行政無線からの呼びかけ」が48%と広報車や防災行政無線からの情報が重要という結果でした。しかし、避難場所までの移動距離や移動中の安全性について不安を抱えているという意見もいただきました。
- その他、援護が必要な方の支援について関心が高く、地域での協力体制の強化を望む声が多かったこと、また、千代川が氾濫した場合の実際の水の流れや危険箇所など、詳細な情報提供を望む声も多数聞かれました。